



感謝状と住民票を手にする JA岐阜信連の渡邊茂典代表理事(左)と湯之下明宏副市長＝飛騨市役所

JA岐阜信連、棚田保全活動支援 飛騨市に20万円寄付

棚田の機能の保全活動を
支援する県信用農業協同組
合連合会（JA岐阜信連）
は24日、棚田のある地域の

振興を自治体と住民が共に
取り組む飛騨市に20万円を
寄付した。同市役所でJA
岐阜信連の渡邊茂典代表理
事理事長が同市の湯之下明
宏副市長に寄付の目録を手
渡した。

JA岐阜信連は、自然環
境や農村景観の維持など多
面的な機能がある棚田の保
全活動への支援を、国連が
示す持続可能な開発目標
(SDGs)の取り組みの
一つとして進めている。

同市宮川町種蔵地区に
は、石積みみの棚田に板倉が
並ぶ種蔵棚田があり、耕
作が続く。住民と近くの人
たちでつくる団体が石積
みの修繕などを行い、同市
が「ふるさと種蔵村」と呼
ぶ集まりを設け、県内外
の270人ほどが村民に登
録し、棚田の保全活動をし
ている。

こうしたことから、JA
岐阜信連は種蔵棚田を保全
する動きを支えるため、同
市の企業版ふるさと納税を
活用して寄付を行った。

渡邊代表理事理事長は
「種蔵の風景や保全の熱意
に感動した。つなぐ棚田遺
産に国から選ばれた種蔵棚
田を守っていききたい」とし、
湯之下副市長は感謝状とJA
岐阜信連がふるさと種蔵
村の村民となる住民票を贈
った。

(一川哲志)